

11月10日 さくら保育園の公開保育を実施しました。

さくら保育園において、神戸大学大学院准教授北野幸子先生にご指導いただき、初めての公開保育を実施しました。

今年度、保育の見直しをされ、玩具や室内環境を整え、保育者主導の与える保育ではなく、子どもを主体とした保育を職員一丸となって進めてられました。

子ども自身が“こんなことやってみたい”“つくりたい”と思った時に、想像や発想が形にしていけるようにと様々な素材や道具が豊富に準備され、環境に自ら関わりたくなる工夫がたくさんされていました。

子どもたちがそれぞれ遊びのイメージを持ち、思いを伝え合いながら遊び込む姿が印象的でした。

参加者に作った物を見せ、自信満々に説明してくれたり、ごっこ遊びにお客さんとして招いてくれたり、参加者も子どもの発想で常に変化していく、魅力ある遊びに引き込まれていたように感じました。これらの遊びが今後どのように展開されるのか、楽しみます。

園の先生が、「子ども同士で“何しようかな”と言い合い、考えるようになった。」「家庭で、園での遊びを口にし、素材を準備してくるようになった。」と子どもたちの変化をうれしそうにお話されていました。

“保育が変われば子どもが変わる”ということを改めて学ばせて頂く貴重な機会となったのではないのでしょうか。



参加園

うみべのもり保育所
岡田保育園
さくら保育園
平保育園
タンポポハウス
なかすじ保育園
中保育所
西乳児保育所
東山保育園
八雲保育園
やまもも保育園
ルンビニ保育園

倉梯幼稚園
三鶴幼稚園
舞鶴幼稚園

公開保育
カンファレンスより

与えられる経験ではなく、子どもたちがつかんでいく経験が大切

～北野先生のコメントより～

<0歳児>

手作り玩具がたくさん準備され、それぞれのコーナーに“さわってみよう”“なんだろう？”と思わせる仕掛けがあり、それぞれが好きな玩具を見つけ、じっくり遊ぶ姿が見られました。子どもたちの穏やかな表情には、安心感がみられ、先生に共感を求める眼差しがたくさんみられました。

【担任の先生より】

環境を見直し、手作り玩具を増やすことで、自発的に遊ぶ姿が見られるようになった

【北野先生より】

◎色・形・動き・触覚等、0歳児の教材、5感を意識した心地よい空間になっていた。

◎手作りおもちゃは、色・さわり心地・音の出る物等、工夫され、子ども視線で発達を考え作られていた。

◎玩具の量が十分にあることで、遊びたい玩具で満足するまで遊ぶことができるよう考えられていた。

◎隠れられる空間がとてつよい。うまくコーナーがつくられ、遊び込める環境づくりがなされていた。

◎手作りのポットン落としは、穴を開けたところに違う色のテープを貼ると目立つし、安全でもある。

◎子どもたちは先生と良い関係が築けている。

信頼関係ができていることで、社会性が育っていた。



<1歳児>

米粉粘土遊びでは、手で丸めたり、ちぎったり、感触を楽しむ姿や、ままごとから包丁やフォークを持ってきて、切ったり、刺したり、作った物を皿にのせる等、見立て遊びをする姿がみられました。

【北野先生より】

◎粘土遊びでは、素材が豊かで、道具、カップの量が十分にあることで、見立てたり、指先を使い、集中して遊んでいた。

◎教材が環境としてあり、子どもがしたい遊びを選ぶ工夫がなされていた。

◎ままごとや押入れ下のコーナー、1歳児の発達に合った遊びのコーナーづくりがされていた。

◎シール貼るための台紙や、貼る部分を示すものを先生が作るのではなく、子ども達がするとよい。ペットボトルのキャップなどで、スタンプする等、子どもにとっては遊びになる。

◎運動コーナーの鉄棒はぶら下がるだけでなく、くぐったり、クネクネしたりできる動線にしてはどうか。



<2歳児>

小麦粉粘土コーナー、ままごとコーナー、運動遊びコーナー、電車コーナー等、子どもたちが遊びを選び、じっくり遊ぶことができるように環境が整えられていました。友だちを意識し、運動コーナーで真似してみたり、「こっちしょ～」とままごとに誘いかける姿がみられました。

【北野先生より】

◎空間の作り方が工夫され、それぞれのコーナーでよく遊び、よくしゃべっていた。

◎ままごとコーナーには手作りの玩具があり、よく遊んでいた。

◎粘土コーナーには一人ひとり粘土板を置くと、空間が区切られ集中できるのではないかと。2歳児は、遊びによって、自分の空間をつくってやることも必要。どうすれば遊びこめるかを、子どもの姿を見ながら考えていく。

◎運動コーナーは無理にルートを決めなくてもよい。子どもがやりたいと思ったところを、満足するまでするのよい。満足すると他にも移っていくのではないかと。

◎コーナーや遊びをルーティンにせず、子どもの興味関心や、子どもとの相互作用で、変化させていくことが大切である。

◎数を数えることについては、数えることに意識を向けるのではなく、遊びながら、楽しみながら数に触れていけるように意識する。

◎いざごの解決は、いざごの中でしか身につかない。怪我につながることや暴力、外見や性差について何かあった時には、なぜいけないのか教え、年齢に応じて注意していく。



「今日のお店屋さんごっこなどの遊びを見て“プロジェクト型保育はこれだ！”と思った。」
～北野先生のコメントより～



＜3歳児＞
準備してもらった写真を見ながらギターを黙々と作る姿が印象的でした。作ったドラムを得意気に叩き鳴らし、

作った物で遊ぶ様子が見られ、ごっこ遊びへの発展が見られました。

【担任の先生より】

前日の振り返りでギターの話題があがり、楽器を作るようになった。

【北野先生より】

◎3歳児はごっこ遊びの宝庫。3歳児でごっこ遊びをしっかりとすると、4、5歳児の協同的学びにつながっていく。

◎子どもがイメージを持って遊んでいる。様々な色や素材があり、イメージを形にしたいくなる環境である。

◎手作り楽器を、歌の時や、集会の時に演奏させてあげるとよい。

＜4歳児＞

廊下にひかれた線路をたどり、部屋に入ると大きな電車。奥にはお店屋さんやままごとコーナーがあり、そこで子どもたちが物づくりをしたり、ごっこ遊びをしたり、それぞれイメージを言葉にして伝え、遊びを進める様子が見られました。子ども一人ひとりの発想や思いを大切にしている雰囲気があり、伸び伸び表現できる環境が準備されていました。

【担任の先生より】

コーナー保育に取り組み、子どもと相談しながら環境をつくった。子どもたちの好きな電車の絵本から電車づくりへと発展。お店屋さんでは、子どもたちの提案で、トイレやシャワーづくりが始まった。

【北野先生より】

◎子どもたちがとても楽しそう！協同的な遊びができていて、少人数のコーナーがつながってきている。

◎シャワーやトイレなど、子どもたちがよく考えていた。

◎子どもたちをしっかりと見る、気持ちを洞察することが大切である。

◎言葉でなくても、行動での創意工夫がたくさんあった。行動の創意工夫は振り返りで先生が言語化するとクラスの共有につながる。



＜5歳児＞

遊びが部屋を飛び出し、園全体が子どもたちの想像を膨らませられる遊び場になっていました。部屋では宇宙ごっこ、お店さんが展開され、手作り衣装をまとった宇宙人が買い物に行き、プールでは宇宙へ行くためのロケットづくりが進んでおり、それぞれの遊びがつながり、役になりきる姿がみられました。また、3、4歳児も遊びに加わり、クラスの枠を越えての関わりがありました。

【担任の先生より】

子どもたちから「お店屋さんしたい」という声が上がりと、街探検をして、どんなお店にしたいかを、子どもたちと話し合いながら進めていった。

【北野先生より】

◎役割分担をして、よくしゃべっていた。5歳児ならではの様子が見られた。

◎それぞれがイメージをしっかりと持って、形にしようしたり、イメージを先生や友だちに言葉で伝え、共有しようとする姿がみられた。

◎ドキュメンテーションとは別に、友達同士が遊んでいた場面の写真を子どもの目線で見えるところに貼り、子どもたちが振り返ることができる物があるとよい。プロジェクトにつながっていく。



＜全体を通して＞

【園長先生より】

4月から、全職員で保育を見直し、玩具や室内環境を整えてきた。今日はゴールではなく、通過点である。さらに勉強してきたい。

【北野先生より】

◎子どもたちが自分で決め、自分たちで遊びをつくる。まさにプロジェクト型保育であった。

◎教科書通りの小学校教育に対し、指導案通りでなくてよいのが幼児教育である。子どもたちがトピックについて創意工夫していき、子どもとの相互作用で作りあげるエマーゼントカリキュラム（子どもの興味関心をテーマに進める教育法）である。

◎行事も子どもの興味関心から子どもと一緒に作りあげていけるとよい。そのため、なぜこの行事をするのか。行事を通して子どものどんな学びにつながるのか…を考えてほしい。

◎いかに固定概念を外せるか…が先生に求められている。

＜参加者からの感想＞

◎自園では部屋の中で済ましてしまう活動が多く、部屋から出ていくことを制限したりもするので、クラスの枠を越えて自由に部屋を行き来されている様子を見て参考になった。

◎3歳児が、実物の写真を見ながらとても熱心にギターを作っている姿が印象的であった。子どもたちの興味関心をとらえ、遊びにつながるよう環境を整えることの大切さを学んだ。

＜Q&A＞

Q:たくさん廃材があつたがどのように集めているのか？

A:保護者に呼びかけたり、子ども達も自分達がほしいと思った物を家から持ってきている。

Q:図鑑や絵本がたくさんあつたが、どのタイミングで購入しているのか？

A:子ども達が興味を持っている様子から購入したり、図書館で借りたりしている。また、興味関心につながるため、意図して準備することもある。

Q:お店屋さんごっこのうどんに本物のネギが使ってたが、本物を使う意図は？

A:芽が出てきた野菜を観察できるよう置いていたところ、子どもたちがネギを見つけてうどんに入れることを思いついた。

11月10日 保育のリーダー研修を実施しました。

乳幼児教育の専門職として、研修等に参加して学び続けることは重要です。また、日々園の中で保育を語り合い、学び合うことも互いの保育を高めることにつながります。今回は、各園の保育をリードしていく立場の先生にご参加いただき、園内研修の方法や、研修におけるリーダーの役割について学びました。

講義「園での保育リーダーとしての役割と園内研修の方法について」 ～神戸大学大学院准教授北野幸子先生～

質の向上と研修

◎専門職として研修や自己研鑽を通して、常に自らの人間性と専門性の向上に努め、専門職としての責務を果たす必要がある。

◎乳幼児教育の質の向上のために、研修は欠かせないものである。研修は個人、プライベートレベルでやるものではない。

個人の責任→組織のマネジメント→さらには制度化へ 研修を受けることを保障する制度が必要とされている。

◎学び続ける保育者を支えるシステムの構築が必要。努力して学び続けている人への差異化、評価、待遇改善等、制度としていけるとさらなる質の向上につながるだろう。

受動的研修→能動的研修へ

受動的研修から能動的研修へ

1. 動機づけ
自明性と必然性＝具体的な子どもの姿（興味関心、発達の特徴、生活課題等）
2. 研修の参加と参画
個々が、発言したり、考えたり、創ったり
3. 研修の結果、意義の実感
4. 研修の後の評価
抽象的評価から、変化を可視化し、評価を発信する

◎与えられた研修課題や講演の聴講から、子どもの姿から課題抽出をした能動的研修に変えていく。

◎参加者が考え発言し、提案し合う機会にする。

◎研修後の評価は、「よくなった」「がんばった」などの感情的なコメントでなく、「〇〇がこう変わったね」など、具体的な変化を捉えて発信することが大切である。

◎研修をどう活かすかを意識すること

が大切である。保育にどのようにフィードバックできるか、環境設営、教材づくり、子どもへの援助・・・自分の保育をイメージしながら研修に臨む。

参加園

うみべのもり保育所	東山保育園
岡田保育園	八雲保育園
さくら保育園	やまもも保育園
相愛保育園	ルンビニ保育園
タンポポハウス	
なかすじ保育園	舞鶴聖母幼稚園
中保育所	舞鶴幼稚園
西乳児保育所	

保育者の自己発揮を支える

◎保育者一人ひとりの得意分野を伸ばし、アイデアを発揮できるようにサポートすることが必要である。

◎子ども同様に、保育者のよいところや頑張り認め褒め、保育者の自己評価を高めることが大切。それぞれを認め合うことで、よい保育者集団になる。

◎若手が精神的に疲弊してしまう傾向がある。あせっている保育者には、経験して一つ一つ力がついていくという事を伝え、話を聞き、支える存在となる。

◎保育はマニュアル化できない。去年やった事が今年同じではない。子どもの姿から展開する保育を大事にし、保育者が主体的に保育を考えていけるようにする。

実践 グループワーク体験

グループワークの内容

- グループワークの目的共有
- ・保育には様々な見方や方法があることを知る
- ・年齢発達を捉える
- ・保育の中の学びと育ちを見とる
- 保育の記録を見て、下記①～⑥の項目が書かれたワークシートにそれぞれが記入
- ①保育のきっかけ(子どもの興味関心から)
- ②子どもの姿、思い
- ③保育者の関わり、意図、ねらい
- ④環境(意図的な環境設定)
- ⑤学び、育ち(年齢発達、根拠となる子どもの姿、言葉も含め)
- ⑥あなたが保育を展開するとしたら
- シートに記入した内容を意見交換
- 発表者がグループの意見をまとめ報告

ファシリテーターのポイント

研修の流れや目的を、全員で共有し、見通しを持ち、学ぶ視点を明確にして参加できるようにしましょう。

安心して発言できる雰囲気をつくるのが大切です。

- ・発言者の話を最後まで聞きましょう。
- ・否定せず、それぞれの意見を尊重しましょう。
- ・全員が発言できるように話をふりましょう。
- ・発言に困っている場合には、助け船を出しましょう。

<ファシリテーターより感想>

- ・皆の意見を聞かなくてはならないのに、自分の意見を言いたくなって困った。
- ・すすめていくのが難しかった。話を広げていたり、まとめるのも難しかった。
- ・初めてだったので戸惑ったが、意見もたくさん出て、皆さんに助けられた。
- ・職員一人ひとりの自己発揮ができるように努め、事例をもとに園内研修ができればいいなと思った。
- ・グループワークで行った事をそのまま園に持ちかえり実践してみようと思った。



どのグループも熱く保育を語り合う様子がみられ、活発な意見交換がなされていました。リーダーの先生を中心に、それぞれの園で保育記録やドキュメンテーションを活用し、園内研修をされてはどうでしょう。

基本的なルール

- 楽しく研修を行うことが“同僚性”“学び合い”につながります。
- ・笑顔・うなずき(お互いに気持ち良く話ができる)
 - ・問いかける(多様な考えを受け入れる気持ちになる)
 - ・学ぶ姿勢で(自分の保育を謙虚な気持ちで変えてみることに繋がる)

※同僚性: 質の向上を目指して、お互いに実践を検討し合い、問いかけ合い、高め合い、支え合うような組織文化